

平成29年度 事業報告書

近年、異常気象が多発しているが、本年も7月に九州北部豪雨に見舞われるなど、気象条件が安定しない中で、青果物の生産・出荷にも大きな影響が見られている。

県下の青果物の生産・出荷状況について、春作は、3月後半に気温の低い日が多かったことからたけのこ等の出荷が遅れた。4～5月にかけては気温、日照とも平年を上回る日が多く、各品目とも順調な生育となったが、6月に入ると一転して低温が続き、トマト、きゅうり等の出荷が一時的に減少した。すいかについても、低温や連続した降雨により着果不良やその後の乾燥傾向により、一部、玉肥大に影響が見られたが概ね順調な出荷となった。

秋冬作は、8月・10月に日照不足、集中豪雨があり、主力のだいこん、トマト、ブロッコリーなどに、生育の遅れや肥大の悪化が見られた。

特に、10月の台風以降は、一部の品目を除き生育不良のため出荷減となっており、3月頃まで影響が続いた。また、本年は1～2月の大雪により、多くの園芸ハウスが倒壊したほか、越冬ブロッコリーや白ねぎも出荷ができない状況となった。

販売面では、すいかが前年に引き続き高単価となったものの、春先から10月中旬までの野菜類は全国的に順調な出回りの中、総じて前年よりも単価安傾向で推移した。

これらのことから、本年度の野菜類（果実的野菜、菌茸類を含む）の共販実績は、出荷量は27,152 t（前年比97%）、販売単価が224 円/kg（前年比96%）、販売金額は6,073 百万円（前年比93%）と前年を下回った。

こうしたなか、交付金の支出については一般業務のトマト・なす・なめこ・だいこん・ちんげんさいで1,683 千円（前年同期76 千円）、特定業務の夏秋トマト・ミニトマト・こまつな・秋冬だいこん・秋冬ねぎで8,245 千円（前年同期1,417 千円）となっている。前年は一般的に単価高で推移し交付金支出の非常に少ない年であったが、本年はトマトを中心に、前年を上回る支出となっている。